

平成29年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題
(芸術学)

(1) 次の2つの問いのうち、どちらか1つを選んで論述しなさい。

1. 20世紀前半、アジアの多くの地域は、列強の植民地であった。植民地と美術の関係について、実例を挙げて、論じなさい。

2. 以下の文章の内容を要約した上で、ドイツ近代における音楽と思想の関係について、自らの考えを論理的に述べなさい。(著作権保護のため、Web公開版では問題文を削除した。出典は以下の通りである。Arthur Schopenhauer, *Die Welt als Wille und Vorstellung*. In: *Arthur Schopenhauer Sämtliche Werke; nach der ersten, von Julius Frauenstädt besorgten Gesamtausgabe neu bearbeitet und herausgegeben von Arthur Hübscher*, F. A. Brockhaus, 1938, S. 304)

(2) 下記のA~D4群の用語から6つを選択して解説しなさい。なお、少なくとも各群から1つを選択し、必ず4群にわたるよう留意して下さい。

1. A群 ① 浜田知明 ② Silpa Bhirasri ③ 啓民文化指導所
- B群 ④ 江月宗玩 ⑤ 俵屋宗達 ⑥ 殷元良
- C群 ⑦ altarpiece ⑧ Jacopo Tintoretto ⑨ Lucas Cranach der Ältere
- D群 ⑩ virtual reality ⑪ ποιήσις ⑫ the fourth wall